

公益社団法人日本臨床細胞学会
2020年度第1回理事会 議事録

日時：2020年4月11日（土）10:00～13:00

場所：WEB会議

役員総数：42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数：理事 33名

（理事）青木 大輔，板持 広明，伊藤 仁，伊藤 潔，井上 健，伊豫田 明，
植田 政嗣，榎本 隆之，大平 達夫，小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加藤 久盛，
川本 雅司，小松 京子，齋藤 豪，佐藤 之俊，進 伸幸，田畑 務，都築 豊徳，
中村 直哉，羽場 礼次，藤井 多久磨，前田 一郎，松浦 祐介，三上 芳喜，宮城 悦子，
森井 英一，森谷 卓也，矢納 研二，横山 正俊，横山 良仁，若狭 朋子

（監事）長村 義之，佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）星 利良，和田 直樹

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

（中田会計士事務所）中田 ちず子

本理事会の開催にあたり、佐藤之俊 理事長、川本雅司 副理事長〔事務局運営・編集・渉外〕、
齋藤豪 副理事長〔総括・財務・専門医・臨床研究〕、中村直哉 副理事長〔認定試験・検査
士・教育〕、森谷卓也 副理事長〔学術・国際交流・IAC〕の挨拶が行われた。

Web会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意
見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されて、議案の審議に入った。

庶務報告

総務庶務報告（2020年3月4日現在）

全会員数：12,718名

（正会員 5,657名，準会員 6,831名，名誉会員 40名，功労会員 174名，図書会員 16
件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,070名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,706名、細胞診専門歯科医 102名）

FIAC：110名 MIAC：38名

細胞検査士数：7,814名（実数）（認定10,335名）

CT(IAC)：4,247名

物故会員（2020年1月23日～2020年3月4日）

功労会員 岡田慶夫（おかだよしお）殿
正会員 今西克彦（いまにしかつひこ）殿
坂口伸樹（さかぐちのぶき）殿（中信松本病院 呼吸器内科）
谷岡慶英（たにおかよしひで）殿（谷岡産科・婦人科）
準会員 奥山隆三（おくやまたかぞう）殿（(株)ファルコバイオシステムズ京都 病理細胞
診センター）
松岡壮（まつおかつよし）殿（ファルコバイオシステムズ岡山研究所 病理検査）
山田仁彦（やまだきみひこ）殿（静岡済生会総合病院 病理診断科）

黙禱

学会年会費滞納者一覧／自宅住所・勤務先住所共に不明な会員一覧の報告
学会年会費滞納者一覧の報告後、対象者に年会費滞納者である旨の声掛けを行って、滞納を
解消することが奨励された。また、自宅住所・勤務先住所共に不明な会員一覧が報告され、
御存知の方がおられたら事務局までお教え下さいとの周知がなされた。

大会準備状況

第 61 回春期大会（佐藤之俊、パシフィコ横浜、2020 年 6 月 5 日（金）～7 日（日））、第
59 回秋期大会（伊藤仁、パシフィコ横浜、2020 年 11 月 21 日（土）～22 日（日））、第 62 回
春期大会（生水真紀夫、幕張メッセ、2021 年 6 月 4 日（金）～6 日（日））、第 60 回秋期大
会（廣岡保明、米子コンベンションセンター BIG SHIP、2021 年 11 月 20 日（土）～21 日
（日））、第 63 回春期大会（岡本愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022 年 6 月 10 日（金）
～12 日（日））、第 61 回秋期大会（伊藤潔、仙台サンプラザホテル・ホールメルパルク仙台
および周辺施設、2022 年 11 月 5 日（土）～6 日（日））の準備状況に関する報告が行われ
た。

第 61 回春期大会は以下の通り。

- ・web 開催とする。
- ・発表者は発表データのアップロードを行い、座長は発表データに対する講評を行う。これ
らで発表者、座長の実績を認める。なお、質疑応答はなしとする。
- ・2020 年 6 月 5 日くらいまでに web 学会参加登録、発表データのアップロードを受け付け、
2 週間ほどしてから発表データの web による閲覧を開始する。閲覧期間は 1 ヶ月程度に限定
し、データのコピーは禁止とし、スマホによるデータ撮影なども禁止とする。
- ・もう一度、次回以降の学会で今回 web 発表した内容を学会発表しても良いこととする。そ
の際、発表ポスター、パワーポイントや抄録に今回 web 発表したことを表記したうえで学会
発表を行うこととする。
- ・海外演者などによる特別講演、アジアフォーラムは web 配信で行うが、social program
は中止とする。
- ・web による学会開催に向けて、web 学会参加登録による各種単位取得の条件と e-learning

課金による各種単位取得の条件をそれぞれ整理していく。

※細胞診専門医会の e-learning 収録を行い、その出席単位については次のようにすることを当理事会で確認した。web 学会参加登録すれば細胞診専門医会の出席単位を与えること、そして、web 学会参加しなかった人で細胞診専門医会の出席単位が欲しい人には細胞診専門医会の e-learning 課金で単位が取得できるようにする。

- web 学会参加登録 4,000 人で収支がプラスマイナス 0 になる見込みである。
- 今年度の総会は Web 会議システムを用いて開催する。

総務委員会（委員長 森井 英一）

〔報告事項〕

他団体からの周知依頼に対応した

〔審議事項〕

特になし

情報処理委員会（委員長 伊藤 仁）

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）

〔報告事項〕

1. 2019 年度特別学術研究費：
 - (ア) 田中良太先生（杏林大学医学部呼吸器外科・准教授）
 - (イ) 研究課題：ゲノム時代における呼吸器科液状化検体の細胞を用いたクリニカルシークエンスに関する多施設共同研究
2. 2019 年度 特別学術補助金
 - (ア) 雨宮健司先生（山梨県立中央病院検査部/ゲノム解析センター 主任臨床検査技師）
 - (イ) 研究課題：Archived cytological specimen を用いた NGS 解析の有用性の検討
3. 班研究費
 - (ア) 大崎博之先生（神戸大学大学院保健学研究科・准教授）
 - (イ) 研究課題：尿中ポドサイトによる糸球体腎炎の各種判定基準の確立－尿細胞診の新たなフロンティアの開拓－

4. 2019 年度学会賞
中村直哉先生（東海大学医学部基盤診療学系病理学・教授）
5. 技師賞(学術部門)
(ア)木下勇一先生（和歌山県立医科大学附属病院中央検査部病理診断部門・臨床検査技師）
6. 2019 年度技師賞(功労部門)
(ア)田路英作先生(公益財団法人大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター臨床検査室・室長)
7. 2019 年度特別学術研究費 2
松浦基樹先生（札幌医科大学産婦人科・講師）
研究課題：自己採取法による HPV 検査の子宮頸がん検診の未受診者対策としての有効性評価
8. 最優秀論文賞
(和文)
金田敦代先生（大阪警察病院病理科）
研究課題：子宮頸部細胞診における ThinPrep® Integrated Imager の有用性について
(英文)
豊田進司先生（奈良県総合医療センター産婦人科）
研究課題：Clinicopathological Characteristics of Atypical Glandular Cells Determined by Cervical Cytology in Japan: Survey of Gynecologic Oncology Data from the Obstetrical Gynecological Society of Kinki District, Japan

[審議事項]

1. 「学術集会のあり方・申し合わせ」→可決

会期：

- 1) 春期は、開催年度の4月から6月の連続する3日間とし、1日目の各種委員会・理事会日程を含む。
- 2) 秋期は、開催年度の10月から12月の連続する2日間とするが、特に委員会選出年度は必要に応じて、各委員会委員長の判断により委員会の開催が可能である。
- 3) 原則として学術プログラムと各種委員会・理事会を同時進行としない。

2. 「知的財産権保有の放棄」について→可決

日本臨床細胞学会の資金（班研究費，研究費等）を使用した知的財産権（特許権等）の申請

が行われた場合、職務発明の知的財産権の保有に類似する事象が発生する可能性があるが、日本臨床細胞学会は公益社団法人であり、学会員は社員には当たらず職務には相当しない。これらのことを鑑み、日本臨床細胞学会は班研究費、研究費等を使用した結果得られた知的財産権の保有を放棄するものとする。

計理委員会（委員長 岡本 愛光）

〔報告事項〕

1. 2020年（令和2年）度の予算、事業計画、議事録（案）を内閣府へ提出した。
2. 2019年（令和元年）度決算について、2020年4月9日（木）に監査会を行った。

〔審議事項〕

1. 2019年度（令和元年度）の決算について

岡本 理事から2019年度決算案の提示および財務三原則の条件をすべて満たしていることが報告され、佐々木 監事から以下2点についても報告があった。

監査報告(1) 理事の職務の執行に関する不正行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。

監査報告(2) 計算書類およびその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に示している。

内容について詳細に審議した結果、満場一致でこれを承認した。公益法人化10周年（2023年）記念事業に予算が必要となることや新型コロナウイルスの影響で学会収入が減収する懸念があることに対し、特定費用準備資金として資金を積み立てる方針も確認した。

編集委員会（委員長 矢納 研二）

〔報告事項〕

電子ジャーナル化に即した投稿規定の改訂作業中。投稿規定改訂案が決定された後に、速やかに制度審議委員会に連絡をさせて頂く予定。

また、2017年投稿論文数 55、2018年投稿論文数 47であったが、2019年投稿論文数は59となり増加傾向に転じている。2020年投稿論文数は2020年3月31日時点で14。

〔審議事項〕

なし

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）

〔報告事項〕

1. 2019年11月30日（土）細胞診専門医資格認定試験実施

総合科 138 名、歯科 5 名が受験した。総合科については、全体では合格者数 118 名（合格率 84%）、病理科合格者数 95 名（合格率 91%）、婦人科合格者数 21 名（合格率 66%）であった。歯科については 5 名中 4 名（80%）が合格した。

2. 細胞診専門医教育研修指導要綱改訂 WG 設置

細胞診専門医教育研修指導要綱を改定するための WG を、理事長諮問委員会として安田政実委員長の下に新たに設置することを通信理事会に申請した。2019 年 12 月 21 日（土）に第 1 回会議が開催され、メンバー、業務分担、今後の方向性、スケジュール等が話し合われた。

3. e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 18 コンテンツ（含 指導医講習 3 コンテンツ）、領域講習 24 コンテンツ、検査士講習 2 コンテンツをアップした。2020 年 3 月 27 日までの累積閲覧数は 2716（ビュー）、単位販売数は 175（単位）× 4,000 円 = 700,000 円（税抜き）である。

4. 2020 年細胞診専門医資格認定試験実施委員長を山下博先生とする。また、副委員長の任命は委員長へ一任する。

5. 細胞診専門医資格更新施行細則一部改訂を行った。

〔審議事項〕

1. e ラーニングサイト委託金について

次の第 61 回春期大会運営事務局が学会 web 参加・web 配信を OpenCEAS 株式会社（e ラーニング講座運営に関して本学会と業務委託契約を締結している会社）へ委託することについて話し合う方針を可決した。これにより OpenCEAS 株式会社の委託金が増えることが期待される。新型コロナウイルスがパンデミックとなっている状況を鑑み、学会／セミナー web 参加・web 配信、e ラーニングシステムの恒常化やこれらをどう活性化していくかについても継続的に審議していくこととなった。

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明 代理 植田 政嗣）

〔報告事項〕

1. 2020 年度新規施設認定について(2020 年 3 月 24 日現在)※締切：2020 年 4 月 30 日（木）

現在までに、0 施設の申請があった。締切後審査会にて審査を行う。

2. 2020 年度新規教育研修施設認定について(2020 年 3 月 24 日現在)※締切：2020 年 4 月 30 日（木）

現在までに、1 施設の申請があった。締切後審査会にて審査を行う。

3. 2019 年度施設年報提出状況(2020 年 3 月 24 日現在) ※締切：2020 年 3 月 31 日（火）
全 856 認定施設中 提出済：378 施設（44.2%）、未提出：478 施設（55.8%）

4. 2019年度教育研修施設年報提出状況(2020年3月24日現在) ※締切:2020年3月31日(火)
全326認定施設中 提出済:147施設(45.1%)、未提出:179施設(54.9%)
5. 2019年度認定施設更新状況:最終報告 ※締切:2019年3月31日
全662施設中、更新可:647施設(97.7%)、辞退:8施設(1.2%)、失効:7施設(1.1%)
6. 2019年度教育研修施設更新状況:最終報告 ※締切:2019年3月31日
全14施設中、更新可:14施設(100%)
7. 2020年度認定施設更新状況(2020年3月24日現在) ※締切:2020年3月31日(火)
全65施設中、申請書提出済:20施設(30.8%)、未提出:45施設(69.2%)、辞退:0施設
8. 2020年度教育研修施設更新
2020年は更新無し。
9. 内部精度管理(実地調査)について
2019年度内部精度管理は、施設認定制度委員会内の内部精度管理ワーキンググループ(浦野誠WG長)のもとで4施設(年報未提出施設2、新規認定施設2)を対象として実施(2019年10月-12月)
対象施設:医療法人厚生会福井厚生病院、大分赤十字病院、国立国際医療研究センター病院、南砺市民病院
結果は、国立国際医療研究センター病院が「違反」であり、違反内容は(1)認定証紛失、(2)専門医不在、であるため、是正を勧告した。それ以外は「良」であった。調査結果は各施設に送付済み。
10. 外部精度管理(コントロールサーベイ)について
2020年度8度目となるコントロールサーベイは、施設認定制度委員会内の外部精度管理ワーキンググループ(湊宏WG長)のもとで実施し、集計結果と解説は2021年3月にはホームページにて閲覧可能とする予定。参加施設にはその際、参加証明書を送付予定。
11. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。
 - ・施設認定に関する施行細則の整理について
 - ・施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
 - ・施設認定に関する申請料について

[審議事項]

なし

細胞検査士委員会(委員長 加藤 久盛)

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

1. 2020年2月29日、3月1日予定の細胞検査士ワークショップ中止に対する対応として以下①～④が確認・可決された。

①2020年3月14日の理事会において、学会の判断で中止したので何らかの救済措置は行うことを賛同いただいている。

②新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として学会側が前日に中止案内をしていることを考慮し、自己都合でキャンセルした受講者を除いた受講予定者（123名）に限り、e-learningシステム〔4,000円〕で勉強して頂いたうえで単位〔座学なので10単位〕を与えること、そして、更新に必要な学術集会またはワークショップに5年間で2回の参加のうちの1回とみなすこととする。なお、全ての会員が無料で視聴することはできる。

③ハンドアウトの作成費に22万7700円かかっており、少しでも補填する意味も含め希望者に1部1800円で販売する。

④講師および運営委員に対しては日本臨床細胞学会における学会活動の準備をして頂き貢献されたとして評議員申請の際の単位として認める。

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 羽場 礼次）

〔報告事項〕

2019年細胞検査士資格更新審査結果のまとめ（2020年2月11日（火・祝）実施）

審査結果は、

更新可 1553名（94.8%）

条件付更新可 7名（0.4%）

地域連携組織への所属要確認・カード等不備有で更新未完了 11名（0.7%）

保留更新 3名（0.2%）

未申請 29名（1.8%）

更新辞退 16名（1.0%）

退会済・退会申請中 18名（1.1%）

上記の内、カード等不備有で更新未完了の11名には不備及び書類の追加提出について連絡済みで、訂正を確認後、更新可または条件付更新可とする。

また、地域連携組織への所属が確認出来なかった方については、再度地域連携組織へ所属の確認を行い、訂正を確認後、更新可または条件付更新可とする。

未申請の29名へはレターパックプラスにて最終意思確認をし、期限（2020年3月9日（月）必着）までに応答の無い者は資格失効とする。

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

その他の審議事項(オ). 参照。

渉外・広報委員会（委員長 小田 瑞恵）

〔報告事項〕

1. 会員へのメール配信について

定期配信；日本臨床細胞学会誌が HP に掲載された、会員へ目次等の一斉メール

2. 他学会等からの共催・協賛・後援に関する申請について

①独立行政法人環境再生保全機構より「第 19 回中皮腫細胞診実習研修会」の後援依頼→承認した。

3. 他学会等との会議出席等について

①一般財団法人 医療関連サービス振興会 サービスマーク認定に係る審査調査指導中央委員会（令和元年度第 3 回）に出席した。

②一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会に出席した（（令和元年度第 3 回：岡 俊郎委員））。

③一般財団法人 医療関連サービス振興会 「医療法改正に伴うチェックリスト改定ワーキンググループ」会議（第 2～4 回）に出席し、「医療関連サービスマーク制度 調査内容 衛生検査所業務」の改定作業を実施している。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）

〔報告事項〕

1 月 9 日 第 3 回診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会が開催された。

3 月 5 日 厚労省より令和 2 年度診療報酬改定の内容が告示

主な変更点：

1. セルブロックの適応拡大（肺がん、胃癌、大腸癌、卵巣癌若しくは悪性リンパ腫を疑う患者）
2. ROSE の適応拡大（膵癌又は胃粘膜下腫瘍が疑われる患者に対して超音波内視鏡下穿刺吸引生検法の実施時）
3. 免疫染色4種抗体加算の適応拡大（原発不明癌、原発性脳腫瘍）
4. 免疫染色の4種加算が1600点から1200点へ減点（-400点）
5. ヘルペスウイルス感染症における Tzanck 細胞の標本作製は細胞診により算定
6. 病理診断管理加算1に関する施設基準のうち、病理診断を専ら担当する常勤の医師の経験年数を5年以上に短縮
7. 病理診断管理加算2に関する施設基準のうち、病理診断を専ら担当する常勤の医師の経験年数を5年以上1名、7年以上1名に短縮

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）

〔報告事項〕

1. 2018年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
報告書提出の回収を2020年1月より行った。
2. 子宮頸がん検診推進活動支援について：
 - 1) 2019年度の活動支援の申請件数 46件
実施内容報告書を提出した地域学会（2019年7月時点で44件）に支援し、助成金の交付は上限5万円、残り2件は、報告書の提出待ち
 - 2) 2020年度の子宮頸がん検診推進活動支援は、支援費用については5万円を上限とし、希望地域は2020年3月末日までに企画書の提出を依頼した。
3. 細胞診に関する公益事業（公開講座等）の募集について
4月に公募開始し、7月末に締め切り、4件の応募があり、いずれも採用と判断。
11月末まで追加募集を行い、2件の応募があり、いずれも採用と判断。
ただし1件は、その後、中止となった。

〔審議事項〕

特になし

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之）

〔報告事項〕

1. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ2019の実施

2019年12月14日(土)～15日(日)；慶應大学
参加者；90名

2. 第28回日-タイ細胞診ワークショップの実施

2020年1月15日(水)～17日(金)；タイ・パタヤ
日本側からの参加者；21名

3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2020 の実施について

- ・前回理事会において、開催は決定済み。
- ・関係者間で日程・会場の調整を行い、2020/11/28(土)・11/29(日)／日本教育会館〔会場使用料436,590円(予定)〕を予定していたが、更に日程を来年3月とすることで再調整中。

■日本教育会館のキャンセル規約

本予約(仮予約期限)は3月31日(火)まで → 交渉の結果、4/13(月)まで延期
本予約すると、会議室使用料全額の請求書が送付され、1週間以内の振込みが必要
キャンセル料規約

- ・使用日1か月前までの取消し「使用料の50%」
- ・使用日の1か月以内の取消し「使用料の全額」

〔審議事項〕

特になし

制度審議委員会(委員長 宮城 悦子)

〔報告事項〕

2020年3月14日理事会において承認された案件

1. 施行細則への入れ込み 3件(旅費, IAC委員会, eラーニング(2020年3月14日付け))
2. 内規・申合せ集への入れ込み1件(喀痰細胞診)：委員に回覧(2020年3月14日付け)
3. 事務局職員就業規則の改定作業終了 文書は事務局で保管
4. 知的財産権放棄→前田委員長より 学術委員会からの資料を参照 本理事会の後制度審議委員会で審議予定
5. 秋期大会時委員会開催可能への内規改定について→総務・学術委員会より連絡待ち

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）

〔報告事項〕

今年の春の学会にて医療安全セミナーが開催されるが、ウェブ開催となると、専門医機構の単位取得が可能か否か不明である。単位取得の可否を含め、参加会員には、その旨の周知を学術集会長にお願いした。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 竹島 信宏 代理 佐藤 之俊）

〔報告事項〕

1. 第61回日本臨床細胞学会春期大会の倫理セミナーにおいて、査読盗用事例について報告する(10分程度)。
2. 日本臨床細胞学会の学会発表において、事前の倫理審査を義務付けるかを検討する（まずは倫理委員会内で検討する）。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 板持 広明）

〔報告事項〕

1. 前回の理事会で、倫理委員会（外部委員）の小谷昌子委員から「利益相反自己申告書」が提出されなかったため、小谷昌子氏に倫理委員会（外部委員）から外れてもらうことが可決された。
2. 2020年3月中旬に送付した「利益相反自己申告書」は、対象者115名中2名が未提出であった(4月10日現在)。その2名には電話連絡をし、提出を依頼した。後日、委員長が、事務局にて内容を確認する予定。

〔審議事項〕

1. 「利益相反自己申告書」を再提出された小谷昌子氏を倫理委員会（外部委員）委員として再承認する件について。→可決

臨床試験審査委員会（委員長 田畑 務）

〔報告事項〕

特になし。

〔審議事項〕

特になし。

IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔）

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 14 日から 19 日まで米国メリーランド州ボルチモアにて開催される。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催。森谷 理事がプログラム委員に入る。
2. IAC が WHO に協力する形で各種臓器における細胞診の報告様式に関する publication を進めることとなった。まずは lymph node と lung についてフォーカスすることが議論されている。

〔審議事項〕

特になし

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）

〔報告事項〕

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study) 』（山梨県、千葉県柏市）

【研究の進捗】

- ・最終登録症例数は18,471 例であり、2015 年4 月以後は登録症例について検診/精密検査実施医療機関と協力して7 年間の追跡調査を実施している。
- ・本研究の初回検診の結果までに関するベースライン論文を、Cancer Epidemiology 誌に報告した(Cancer Epidemiol. 2017;50:60-67)。
- ・本研究は特定臨床研究に該当するため、認定臨床研究審査委員会（慶應義塾臨床研究審査委員会）への申請を行い2019 年2 月8 日に認可を受けた。認可後に関東信越厚生局へ実施計画を提出し、jRCT への登録（臨床研究実施計画番号：jRCTs031180313 公表日：2019 年3 月15 日）を完了した。
- ・本研究は特定臨床研究として中央モニタリングを行う必要がある。モニタリング担当部門を神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センターモニタリング部に担っていただき、2020 年1 月に第1 回中央モニタリングを実施した。
- ・監査について
本研究では、特定臨床研究への移行に伴い定期的な監査を行うことが必要である。日本臨床細胞学会の臨床試験ワーキンググループの中に監査委員会を設置し、この監査委員会のリーダー（CITRUSスタディ監査チームリーダー）に国立病院機構 東京

医療センターの山下 博先生に就任していただき、3/9に山梨県のクリニックにて、また、3/13本学会事務局にて監査が施行され特に問題を認めなかった。

【今後の計画】

- ・2020 年度も引き続き研究登録者への検診の受診勧奨、精密検査対象者の精検受診勧奨を行うとともに検診/精密検査実施医療機関と協力して追跡調査を継続する。
- ・研究参加者のlost-follow 症例を減ずるために、登録症例の中の研究最終年度（6 年目）における検診未受診者に対して、参加者の健康状態や医療機関への通院歴に関するアンケート調査票を個別に郵送し、回答を回収・集計する。
- ・引き続きデータマネジメント、モニタリングなどについては公益財団法人神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センターと、データ登録システム（EDC システム）についてはメディカルエッジ株式会社と協同して作業を行う。

<現在日程が定まっている予定>

- ・2020 年4 月～9 月 検診未受診者に対する参加者の健康状態や医療機関への通院歴に関するアンケート調査
- ・2020 年6 月：第61 回日本臨床細胞学会春期大会において、研究内容の一部について発表を行う予定
- ・2020 年10～11 月：山梨県中間報告会
- ・2020 年10～11 月：柏市中間報告会
- ・2020 年11 月：第59 回日本臨床細胞学会秋期大会において研究内容の一部について発表を行う予定

〔審議事項〕

特になし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ(委員長 森井 英一)

〔報告事項〕

1. 実証実験の計画を立て、実行状況について確認した。現在、グループに分かれて実証実験中である。
2. 事業費について北海道大学に入金が終了した。
3. 多施設共同研究の倫理審査について、北海道大学を主施設として認可された。国立がん研究センターについては別途検討中。

〔審議事項〕

特になし。

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ

(委員長 佐藤 之俊)

[報告事項]

1. 作業のロードマップを作成した。
2. ワーキンググループの計画に対する研究費が支給された。

[審議事項]

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)

[報告事項]

1. 本 WG において新たな 4 段階の判定基準を提案し、それに基づく診断の検討を Acta Cytologica に投稿し revise ののち accept、3 月 31 日 (火) オンライン掲載された。

(資料 1)

2. 国際的な Steering Committee を組織し、国際基準作成作業を進めている。

[審議事項]

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)

[報告事項]

1. 多施設共同研究 (課題名: 乳腺細胞診の新しい報告様式に関する多施設共同研究) を行うため、現在倫理申請を行っている。
2. 次回会議は 2020 年 6 月 20 日 (土) を予定している。

[審議事項]

特になし。

細胞診専門医教育研修指導要綱改定ワーキンググループ (委員長 安田 政実 代理 森井 英一)

[報告事項]

2019 年 12 月 21 日に第一回会議を開催。10 名のメンバーおよび担当分野を決定した。

[審議事項]

特になし

その他の審議事項・報告事項

(ア). 2019 年度事業報告案について→可決

2019 年度公益社団法人日本臨床細胞学会事業報告（案）

1. 臨床細胞学に関する学術研究の推進並びに学術集会の開催

- ① 学術集会等を通じた研究・教育の普及および広報
 - 1) 第 60 回（2019 年）春期大会 竹島信宏大会長
会期：2019 年 6 月 7 日（金）～9 日（日）
会場：京王プラザホテル・NS イベントホール
 - 1) 第 58 回（2019 年）秋期大会 森谷卓也大会長
会期：2019 年 11 月 16 日（土）～17 日（日）
会場：ホテルグランヴィア岡山・岡山コンベンションセンター・他
- ② 班研究活動への助成による学術研究
2019 年度班研究課題を公募し、3 題の応募があった。学術委員会選考会にて審議した結果、大崎博之氏より応募された「尿中ポドサイトによる糸球体腎炎の各種判定基準の確立－尿細胞診の新たなフロンティアの開拓－」が採用された。
- ③ 2019 年度特別学術研究費を公募し、3 題の応募があった。学術委員会選考会にて審議した結果、田中良太氏より応募された「ゲノム時代における呼吸器科液状化検体の細胞を用いたクリニカルシーケンスに関する多施設共同研究」が採用された。
- ④ 2019 年度特別学術研究費 2 を公募し、1 題の応募があった。学術委員会選考会にて審議した結果、松浦基樹氏より応募された「自己採取法による HPV 検査の子宮頸がん検診の未受診者対策としての有効性評価」が採用された。
- ⑤ 細胞診の学術研究と海外との交流を推進のため、2019 年 5 月 5～9 日にオーストラリア、シドニーで開催される 2019 International Cytology Congress (ICC) 参加サポートの「2019ICC トラベルグラント」を設定。14 名中、11 名が選考され、1 名につき 100,000 円、合計 1,100,000 円の支援を行った。
- ⑥ 公益活動の推進を図ることを目的に、細胞診に関する公益事業（公開講座等）に助成金として資金援助を 6 件（東海連合会 2 回、沖縄県細胞学会、第 58 回秋期大会、静岡県臨床細胞学会、大阪府臨床細胞学会）行った。
- ⑦ ゲノム医療時代の到来をふまえてゲノム医療における細胞診検体のあり方を検証するため、病理細胞検体の核酸品質検討に関する研究費の助成を行った。
- ⑧ 学会研究活動
「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)」、「子宮頸癌疑い患者及び検診受診者を対象とした LC-1000 の有用性に関する臨床試験」を行った。ゲノム医療時代における細胞診のあり方を検討するため、検体保存と DNA 品質との関連などを調査する研究活動を行なった。

- ・資格更新無し
 - 2) 2019年度細胞検査士
 - ・資格認定者数 236名（内学生受験合格者50名）
 - ・資格更新者数1,637名
 - ② 教育研修指導医の資格認定
 - 1) 2019年度教育研修指導医の認定者数166名
 - 2) 2019年度教育研修指導医の資格更新者数285名
5. 細胞診断の質を維持、向上させるための施設認定、研修に関する事業
- ① 細胞診を用いた検診等を実施する団体等への施設認定、細胞診専門医を育成するための教育研修施設認定
 - 1) 2019年度施設認定
 - ・新規施設認定 14施設
 - ・総認定施設数 856施設
 - ・認定資格更新 662施設
 - 2) 2019年度教育研修施設認定
 - ・新規施設認定 7施設
 - ・総認定施設数 326施設
 - ・認定資格更新 14施設
6. その他前条の目的を達成するために必要な事業
- ① 国際細胞学会（IAC）の資格認定や連携（合同シンポジウムの開催など）
 - 1) 2019年度 IAC 資格更新 101名
 - 2) サイトパソロジスト試験合格者 4名
 - 3) サイトテクノロジスト試験合格者 158名
 - ② 肺がん学会とのワーキンググループ
 - 1) 日本肺癌学会・日本臨床細胞学会による2学会合同の「肺癌細胞診の診断判定基準の見直し」を行った。
 - ③ ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ、IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ、細胞診専門医教育研修指導要綱改定ワーキンググループを作った。
 - ④ 地域連携の活動を行った。
 - ⑤ 国際交流事業（日韓、日中、日・タイ、日米との共催事業、豪州との人事交流、カンボジアへの支援を実施）を行った。
 - ⑥ 新型コロナウイルス感染症に対する検討と対策を行った。

(イ). 2019年度決算案について→計理委員会〔審議事項〕1. 参照。

(ウ). 秋期大会時の委員会開催について→学術委員会〔審議事項〕1. 参照。

(エ). 社員総会について

委任状を集めて佐藤 理事長を中心に少人数で柔軟に行うこと、来年の議長を生水 理事のところから出して頂くことを可決した。

(オ). 今後の各種セミナー・ワークショップ・資格認定試験について

・第129回細胞検査士養成講習会（東京医学技術専門学校 2020年6月29日～7月11日予定）、第45回細胞診断学教育セミナー（CIVI研修センター新大阪東 2020年8月6日～8月9日 予定）、第80回細胞検査士教育ワークショップ（秋田大学 2020年7月18日～7月19日 予定）は中止とする。

・第79回細胞検査士教育セミナー（パシフィコ横浜 2020年8月22日～8月23日 予定）／第80回細胞検査士教育セミナー（松下IMPホール 2020年9月5日～9月6日 予定）は、パシフィコ横浜開催／松下IMPホール開催を中止とするが、その代わりにe-learningコンテンツ2つ〔1コンテンツあたり4,000円〕を提供する。第79回細胞検査士教育セミナーに代わるe-learningコンテンツで更新の出席単位（5年に2回以上）を認定し、第80回細胞検査士教育セミナーに代わるe-learningコンテンツでも更新の出席単位（5年に2回以上）を認定する。また、細胞検査士教育セミナーはもともと座学のみなので、第79回、第80回それぞれで、eラーニング2コンテンツ視聴で25単位認定とする。

・細胞検査士資格認定試験／細胞診専門医試験の開催・非開催および開催する場合の開催方法については理事長一任とする。

(カ). 評議員選出作業が行われており、2020年4月19日に会議があるが、COVID-19対策のため委員会の開催を含め4月19日中に評議員が最終確定しない可能性もあることが川本理事より報告され、評議員選出のスケジュールは評議員選出委員会に一任された。

以上で本理事会の議題が終了し、川本雅司 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

2020年 6月20日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛 

監事 土屋 眞一 